

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100032		
法人名	(株)創生事業団		
事業所名	グループホーム イコロの里		
所在地	福岡県春日市平田台1-138-2		
自己評価作成日	平成22年11月5日	評価結果確定日	平成23年1月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームイコロの里では家庭的な雰囲気を出す為に、家(自宅)により近い形をより自然に取り入れています。又、建物の隣にある畑を活かして野菜など入居者さんと一緒に植え収穫し喜びをあげています。地域との交流では回覧版・廃品回収を中心に清掃活動・ラジオ体操・祭り・芸術祭など参加し地域とのふれ合い、つながりを大切にしています。今年も家族も同行し旅行も行いました。入居者さんからはいつもと違う表情も見られ、とても良い思い出となりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「イコロ」とはアイヌ語で宝物という意味があり、「里」とは人が集まり生活をしていく場所、また故郷としてとらえることが出来、開設時の思いが込められているホーム名となっている。開設して3年目を迎える中で、地域との交流は少しずつ充実してきており、町内の行事や活動にも一住民として入居者共々参加し、また小学生の訪問やお便りは定例化する等、一つずつ積み重ねてきた取り組みが広がりを見せている。広い敷地内では庭園の彩の変化を楽しみながら散歩したり、菜園で野菜の生育や収穫を楽しんだり、迎え火・送り火の祭壇をもうけたりと、季節感を大切にしたい楽しみごとや行事が企画実行されている。入居者の日常から知れた事や、家族からの要望や意見は貴重な情報として記録に残し、職員全体で共有しており、入居者・家族の気持ちに寄り添いながら、常に日々の「暮らし」を大切にしたい支援に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人ひとりが理念を共有できる様に、毎朝朝礼で理念を復唱している。また理念の中にユニット名である「愛」「笑」を組み込んでいる。	「イコロ」とは、アイヌ語で宝物を意味し、「里」には地域社会の中での暮らしという思いが込められている。理念として「安らぎのある里 笑顔のたえない里 愛のある里」と掲げ、ユニット名も「愛」「笑」として、理念とつなげている。理念の実践に向けて、朝礼にて復唱している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者様と地域の方とのバーベキュー、事業所の夏祭りなどで交流を図っている。また小学校のバザーや地域の盆踊りに参加したり、定期的に回覧版、廃品回収など地域に出向き交流している。	地域の消防訓練や行事には積極的に参加され、定期的なクリーン活動では、入居者と共に施設職員と意識されないよう私服で参加している。公民館での回覧板の受け取りや近隣のお店での買い物時は入居者と同行し、地域の方々との自然体の交流を育んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生との交流などを通して、地域の子供達に実際に認知症の方と触れ合って頂く機会を設けている。又、近所のお店の方にも認知症を理解して頂き対応してもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に一回開催し行政、地域の代表ご家族様が参加している。現在の利用状況、活動報告、ヒヤリハットなど話し合い、また身体拘束に対する議論を交わしたり地域の人たちやご家族様からの要望等意見を交わしサービスの向上に活かしている。	民生委員や多数の家族の参加もあり、率直に「ヒヤリ・ハット」等の事例を報告している。身体拘束についての学習会では、活発な意見交換も行われ、家族や地域の方に向けた、認知症や人権についての啓発にもつながっている。「最後の一言」で参加者全員の発言する機会を設け、全員参加型の会議開催、意義のある開催に向けた取り組みが確認できる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	対応困難な入居者様の対応などについては、密に連絡を取り協力関係を築いている。又、施設での行事にも参加して頂ける様に声掛けし積極的に連携を取るようになっている。	事業所立ち上げ時から、市の担当者との連携を深めるよう取り組んでいる。運営推進会議には、春日市職員、包括支援センター職員の参加があり、運営状況を直接報告できる体制となっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていない。また資料についてもスタッフがいつでも見れるようにしている。また玄関などまったく鍵をかけない開放型としている。そのため入居時にご家族様にも説明し、鍵をかけないことの意義、リスクを説明し理解をもとめている。	各ユニットとユニット共有の2箇所の出入口があり、心地よい音色の鳴子が設定されている。日中、玄関は施錠はされず、出入り自由となっており、外出時にはさりげなく寄り添う支援を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日入居者様の身体状況を観察し、小さな内出血でも報告に上げるように努めスタッフ全員で虐待防止に努めている。関連法について学ぶ機会がなかなか持てていないので、今後は外部研修に積極的に参加していきたい。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ、ご家族様に対してNPO法人のボランティアの方の説明会を行い学ぶ機会をもうけている。	外部より講師を招き、入居者家族及び全職員を対象とする研修を実施している。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要時には支援を行うことができる体制作りに取り組み、関係者への情報提供が行われている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間をとり理解して頂いている。すべての内容を文章、口頭で伝え、しっかり納得の上不安がないようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様がいつでも不満や困っていることが言えるような関係を築き個別にも対応している。また苦情ノートにて改善に努めている。	家族からの要望や苦情については、随時細かく「苦情ノート」に記録されており、ミーティング等において検討された内容、対応結果を残し、全職員にて共有されている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、スタッフの意見や提案を聞く機会を特に毎日の申し送りを中心に設けている。また全体では月1回のスタッフミーティングの場を設け運営に関する意見交換をしている。	リスク・食事・衛生美化・レクリエーション係等に全職員を割り振られ、毎月のミーティングでの各係の意見や提案を運営に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力・実績・仕事ぶり・態度など把握し評価を定期的に行い整備している。又、無理のない勤務設定をし働きやすいように環境を整えている。働きやすい職場を一番としている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフの募集、採用はすべて問わずグループホームでの意欲、やる気を最重視している。例えばグループホームで特徴的な料理が全く出来なくても入居者様に教えて頂く事で相互の共感や喜びにもつながっている。また無理のない勤務にする様配慮している。	採用時に、その人の得意とする分野や能力ある適所に担当を決め、ホームの運営に対する役割と自覚を養われている。毎月のミーティングでも担当からの発言や提案は重要視され、人権を大切にした職場環境に配慮されている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	就業時に、入居者様に対する言葉使いや対応を十分に説明しているが、グループホームの特性を生かし、家族のような対応ができるよう、すべてを敬語でというのではなく暖かい雰囲気の中過ごして頂けるような声掛けを心掛けている。	年間の研修計画に組み込まれ、実施されている。特に新採用に当たっては、先輩職員が指導する事で、自分自身も人権について再確認する機会となっている。	

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、事業所内での研修など計画を立てレベルアップにつながるようしている。報告書にてスタッフ全員に共有してもらい育成に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	春日市では同業者との交流を図る為に各運営推進会議の参加を図っており、他のホームの良いところや、サービスの内容で学ぶところなど相互に交流を通じ向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階ではフェースシートなどを参考にし日々の生活を手探りしながら、その方と信頼関係を築いている。自分の意志を伝えることができない方もいるので、過去の生活歴をこまめに聞き取り記録を行いスタッフ同士で話し合う場を設けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の困っていることや要望など聞き取りスタッフに伝えている。又、面会時には普段の生活面や健康面をその都度お話している。さらに交換日記や手紙などでより深い信頼関係を築ける様に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時まず「料理をしてほしい」という要望があればそのサービスを行い、外出支援が必要としているのであればそれを中心にサービスを導入している。又、必要な方にはマッサージを利用されたりしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々と共に長い時間を過ごしているの、共通の話題をして関係を築いている。又、レクレーションや草むしり、料理など一緒にいき親近感を持ち暮らしを共にするもの同士の関係を過ごしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の方や事情にてなかなか面会に来れない方もいるので、そういった方には手紙などをこまめに送っている。又、敬老会やバーベキューなど聞き家族と入居者が一緒に過ごせる機会を作っている。今後は個別に家族・入居者・スタッフとが外出したりできる機会を増やしていきたい。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞いなど昔の友人に送っており、これまでの関係が途切れない様に支援している。又、本人が今まで大切にされていたペットを連れて来てもらい喜んでもらっている。	昔なじみの友人との、年賀状や暑中見舞いのやり取りを行い、返事を見ながら懐かしまれている。また行ってみたい故郷など、家族と共に出かけられる様に支援している。	

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の生活歴を事前に把握し入居者同士の関係がうまくいくように支援している。しかし人間関係がうまくいかない方達もいるのでトラブルにならない様に支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を大切にしている。例えばホームでの行事にお誘いしたり手紙を送ったりしている。又、退去された方の面会にも行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴や今現在の希望・意向を把握する為に、独自の何でも帳を作成している。困難な場合はスタッフミーティングで話し合っている。	入居時や定期的なアセスメント様式に加え、日々の気付き等を書留めて置くために、個別の「何でも帳」を作成し、職員間で共有している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に極力自宅に訪問し、その方の暮らしの状況や環境を把握している。馴染みのある仏壇や家具を持ち込んで今までの生活が継続できるように支援している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン・尿・排便・水分などをチェックし変化を見逃さないようにしている。又、グループホームならではのゆったりとした時間の中でコミュニケーションを多くとり一人一人の現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に聞いた本人の思いなどを基本とし家族の思いや担当者の思いを組み入れ計画を作成している。モニタリングに関しては毎月、担当スタッフが工夫したい点や実地状況等を記入している。	センター方式を参考にしながら工夫された独自のアセスメント様式により、幅広い考察が行われている。本人・家族の参加する担当者会議を開催し、その人らしく、QOLを高めていけるよう具体的な記載がなされている。毎月、各担当者によるモニタリングが実施され、見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個人記録に記入し、スタッフ間で情報を共有している。又、気づきや工夫を伝達長や何でも帳に記入し出勤時に目を通し把握する様に努めている。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば家族が遠方にいる方は病院付き添いや外出支援など柔軟に行っているが、今後はさらに事業所の多機能化に取り組んでいきたい。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例えばグループホームに入居した後も、もともと暮らしていた地域の敬老会に参加し本人が楽しめるように支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・家族には入居前にかかりつけ医と適切な医療が受けれるように面談している。かかりつけ医による月2回の往診と歯科医による週1回の往診など健康管理を図っている。	かかりつけ医の往診、また本人や家族の希望で受診された場合には、日々の記録やバイタル表を提示しており、診察の結果は「医療記録ノート」に記入し、職員全員で情報が共有され、適切な医療活用、健康管理につなげている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の看護師には困った時、迷った時など常に相談している。又、隣接している同グループの特定施設の看護師にも協力を得て相談している。今後は看取りを行っていく上で訪問看護の導入も検討している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際、定期的に面会を行い病院関係者との情報交換や相談に努めている。又、李良連携室と定期的に連絡を取り、入居相談にもつなげている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えた入居者様には家族と話し合いをし今後の方針を決めているが、看取りの体制はまだ整備できていないので今後かかりつけ医の協力を得ながら進めていきたい。	家族と話し合いの上、リビングに隣接する和室にて、終末期におけるできる限りの対応を行った経緯もある。終末期ケアについての研修に参加する等、今後の体制作りに向けて、真摯に向かい合っている。	本人・家族の要望に寄り添う為にも、支援体制づくりに真摯に向き合おうとしていることが、研修後のレポートの内容からも伝わってくる。終末期や看取りについての事業所としての方針を明文化することや、運営推進会議での検討も含め、関係者間での方針共有に向けた取り組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、スタッフは救急救命講習に参加し心肺蘇生法や応急手当の訓練を行っている。又、緊急時対応の流れを定期的確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に3回行っているが、全スタッフがいざ実行できるかは疑問である。又、今現在は地域との協力体制もあまり築けておらず、まずは近隣の方に施設の状況を知ってもらうことから始めていきたい。	年3回、消防訓練が行なわれており、民生委員等の参加を得ている。町内会の防災訓練にも入居者の方々とともに参加している。このような機会と共に、運営推進会議の議題としても取り上げ、家族や近隣住民の方々と協力体制の強化に向けて取り組む意向がある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握して、その方に合った言葉かけを行っている。例えば、尿失敗した時は周囲に気遣いし、静かに声掛けをしながらプライドを傷つけないようにしている。	個々人への言葉掛けや対応を大切にした支援が行われている。特に新規採用時には、教育プログラムに沿ってベテラン職員による指導が行われており、個々の人格を尊重した対応を指導されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多く取り、やってみたい事などを会話の中から組みとれる様に働きかけている。例えば、「何を食べたいか」「何をしたいか」などを尋ね相談しながら自己決定できるように働きかけている。しかし、自己主張が少ない入居者様に対して、思いや希望を聞きとる努力が必要である。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった業務は作らずに、入居者様一人ひとりのペースを極力大事にしている。例えば「外へ出たい」という希望があれば、自由に外出できる様スタッフが付き添ったりして支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの馴染みの服や髪型など、その人らしくおしゃれ出来る様に支援している。意思疎通が困難な入居者様は家族に色の好みや好きだった洋服などを聞いている。又今後は、本人様と一緒に洋服を選びに行ける様にしたい。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に台所に立ち食材を切ったりして頂いたり、料理のつぎ分け・配膳・片付けなども一緒にやっている。またそういった中で、入居者様がスタッフに教えるような環境も出来ている。	敷地内の菜園での野菜の収穫をしたり、食材の買い物に同行していただいている。作業しやすいよう、低めに設定された調理台で一緒に調理をされている。それぞれの役割で男性の方もお菓子作りやケーキの飾りつけを楽しまれている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取確認表に一日の食事摂取量を記録している。おやつ時や入浴後などに水分を取ってもらい、必要な水分量を確保している。食事だけでは栄養が足りない方には間食を用意したり、朝食を食べられない方には、昼食・夕食の食事量を増やして一日に必要な量が摂取できる様に努めている。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。極力自分で行ってもらい出来ない所のみ支援している。又、口の中の清潔をもっと保持できるように、歯周のマッサージや歯間のケアも支援していきたい。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の状態に応じてオムツの使用の有無等、スタッフミーティングにて話し合いの場を設けている。排泄表を記入し一人ひとりの排泄パターンを把握する事に努め、一人ひとりに合った支援を行っている。	個々人の排泄パターンや状況の把握に努め、カンファレンスにおいて検討が行われており、オムツや下着の工夫等、一人ひとりに応じた支援に努めている。日常的な運動や飲み物の工夫も含めた水分量への配慮等により、自然な排泄となるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない場合は水分を多目に摂って頂いたり、廊下などを歩き運動する機会を持ち排泄時の排便に網がるよう予防に取り組んでいる。 牛乳・ヤクルトを毎日提供し、自然排便につなげている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めずに、入居者様が入りたい時に合わせて入浴できるようにしている。又、入浴が苦手な方にも気持ちよく入浴できる様な言葉かけを工夫している。数種類入浴剤を用意して、入浴を楽しんで頂けるようにしている。	入浴日や時間等を特に決めず、個人のこれまでの生活習慣やリズムに沿って入浴支援を行っている。入浴剤やハーブを用い、入浴が楽しみになるよう工夫されている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温調整に努め安心して気持ちよく眠れるように支援している。夜間不眠の方や安眠できない方には、昼間短時間の休息をとったり、体を動かしたりし夜間の安眠につなげている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬を理解できるように、フェイスシートや医療記録に常に目を通してている。服薬の症状は、例えば降圧剤を飲まれている方は2時間後の血圧測定にて症状の変化の確認に努めている。服薬の支援は、飲みにくい方がいれば薬剤師に相談し、にがいと感じる方がいればオブラートなど使用している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの 分野や趣味を活かせる様に、買い物・洗濯・料理・また、習字・手芸などの役割や楽しみを持って頂き、喜びのある日々を過ごせる様に支援している。		

福岡県 グループホーム イコロの里

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>買い物や散歩に出掛けようとする時には止めたりせずに、スタッフが付き添っている。又、少しでも外出が多く出来る様に回覧版を取りに行くなど支援している。</p>	<p>広い敷地内には、散歩に適した歩道があり、気軽に散歩や外気浴を楽しむことができる。少人数で回転寿司を楽しんだり、近くの商店の買い物では、お店の人と顔なじみになったり、地域のクリーン活動に参加している。</p>
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>大半の方がお金を所持しており、買い物の時等は自分でお金の支払いが出来る様に支援している。自分でおかねを所持しているが、所持金の把握が難しい方は、おこずかい帳を作成し活用している。</p>	
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>スタッフと一緒に手紙を書き、家族に送っている方もいる。手紙が本人にきた場合は便せんや切手の用意などスタッフが手伝っている。本人自らが電話をすることに関しては、家族の理解と協力を今後もっと持っていきたい。</p>	
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気が出る様に玄関先に花を植えたり、居室の室温調整やトイレには芳香剤を置くなどして居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、季節ごとにクリスマスツリー・ひなかざり・七夕等を飾り、季節感を採り入れている。</p>	<p>格子のある引き戸の玄関は、日本家屋の懐かしさがあり、天井からの明り取りは廊下の隅々まで明るくしている。対面式の厨房では、調理する様子や音、匂いが伝わり、入居者の方々へ落ち着きを与えている。和室は掘り炬燵よっており、さり気なく加湿器が置いてある。行事や季節感ある飾りつけで、節目節目を大事にされている。</p>
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間の中で和室や廊下にも椅子を置き、気分を変えて頂くよう心掛けている。また、和室の掘りごたつに座り、ゆっくりと気の合った方同士で会話を楽しんで頂く場面もある。</p>	
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使い慣れた家具や布団等、好みの物を使って頂いている。また、時計や小物を好きなように置いて頂き、より今までいた部屋に近づけるよう工夫している。</p>	<p>各居室入り口には、それぞれの方々にとっての大切な品を飾る場所が設けられており、自室としての認識がしやすいよう工夫されている。出窓には植木鉢が置かれたり、風景写真や習字作品、手芸品等が飾られており、個性ある居室となっている。</p>
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>家庭的な雰囲気を壊さないためにトイレマットや玄関マットを敷いているが、安全な生活が送れるように滑り止めマットを活用している。又、出来るだけ自立した生活が送れるように入浴で例えれば浴室にき希望にそって手すりを後からでも設置し安全に努めている。</p>	